

[11 月度例会] 施設見学「大滝ダム」

日時：2014年11月6日(木)13:30～15:30

説明者：紀の川ダム統合管理事務所 管理課長 渡邊俊夫氏
同 建設専門官 米村克己氏
同 大滝ダム管理支所 管理係長 川端敬司氏

1. 施設概要

紀の川は、その源を大台ヶ原（標高 1,695m）に発し、中央構造線に沿って紀伊半島の中央を貫流し、高見川、大和丹生川、紀伊丹生川、貴志川等と合流し、紀伊平野に出て、和歌山市において紀伊水道に注ぐ、幹川流路延長 136km、流域面積 1,750km²の一級河川である。

大滝ダムは、紀の川上流の吉野郡川上村にあり、集水面積は 258 km²で、紀の川流域の 15% を占め、紀の川水系の洪水調節、流水の正常な機能の維持、上水道用水、工業用水、水力発電を目的とした多目的ダムである。

形式は、重力式コンクリートダムで、堤高は、100m、堤頂長は、315m、堤体積は、1,030,000 m³、放流設備として、コンジットゲートを 3 門、クレストゲートを 4 門、利水放流設備を 1 基、選択取水設備を 1 基、計画水位維持放流設備を 1 基備えている。

計画以来地元の反対運動が激しく補償交渉が極めて長期化したほか、完成直前に貯水池斜面が地すべりを起こして対策に時間が掛かるなど完成までに 50 年の歳月を費やした日本の長期化ダム事業の代表格である。2004 年（平成 16 年）に利水目的の暫定供用を開始し、2012 年（平成 24 年）6 月に治水目的の供用が開始された。ダムによって形成された人造湖は、公募により「おおたき龍神湖」と名付けられている。

2. 見学内容

大滝ダムの脇に設置された駐車場にバスが着くと、国交省職員の出迎えを受け、あいさつの後、壁面を利用した案内板を利用し、ダムの位置や建設計画から運用開始までの経過、機能等について、説明があり、その後、堤体内に設置されたエレベーターを利用して、堤頂から 60m 下の下流側の広場に案内され、各種放流設備の配置、放流量調整方法、その他のダム機能を含む説明を受け、記念写真を撮ってもらった。

ここからは写真で見るとは違う迫力のあるダムを目にした。この印象は、さらにその後に案内された堤体内に設置されたコンジットゲートの駆動部を見たときに強められた。上下水道施設で日常的に見かける規模から、あまりにもかけ離れたサイズだったからである。

最後に、元の場所に戻ったところで、アンケートの依頼とダムカードを受け取り、見学が終了した。

3. その他



昼前に、大滝村役場前に到着し、昼食後、徒歩 15 分ほどの高台にある水の神様である「丹生川上神社上社」に多くの会員がお参りした。団体が徒歩でお参りする例が少ないとのことで、宮司により特別に神社の概要等についての説明を受けることができた。

初のバスツアーで、帰途の際、道の駅に立ち寄るなど、楽しい一日となった。